①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・平均の意味，平均の計算の仕方について理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・3年「わり算」で，いくつかの量を合わせて1つにし，それを等分すればどれも同じ大きさの量になる学習をしている。

≪学習問題≫

子ども会で，Ａ，Ｂ2つのグループ

に分かれて空きかん集めをしました。

グループの人数と集めたかんの1人

あたりの平均の個数は，右の表のよ

うでした。子ども会全体では，1人あたり平均何個集めたことになるでしょう。

教材研究ノート№5-D-2

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 人数 | 1人あたりの平均 |
| Ａ | 18人 | 　　15個 |
| Ｂ | 12人 | 　　10個 |

②見通し：平均＝合計÷個数で求められるが，合計がわからない。

→グループの平均を使ってグループの合計を求められないだろうか。

②学習課題：グループの平均を使って全体のかんの個数を求め，　　1人あたりの平均の個数を求めよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究：グループの平均を使って，一人あたりの平均の個数を求め，求め方を説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どうして，ア(15＋10)÷2と，イ(15×18＋10×12)÷(18＋12)では，結果が異なるのだろうか？」

→「アは，2つの平均の合計をグループの数でわっているが，イは，全体の合計を全体の人数でわっている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「アの(15＋10)÷2は，なぜ正しくないのか？」

→「2つのグループの人数が違うから，これでは求まらない。」

「人数が違う場合には，全体の合計を求めてから平均を出す。平均を人数倍すれば，合計が求められる。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・2つのグループの人数が異なる場合は，全体の合計を求めてから，全体の個数でわれば，平均は求められる。

・グループの人数が同じときは，2でわってもよい。

⑥定着･活用問題

(1)たまご10個の重さをはかったら，次のようでした。このたまご1個の重さは，平均何ｇでしょう。

　　　61ｇ：3個，62ｇ：5個，63ｇ：2個

(2)はじめの問題で，10×12は，何を表していますか。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・平均から全体を求める求め方を考える中で，平均についての意味理解を一層深め，平均を活用することのよさに気付けるようにしたい。

・グループの人数が同じ場合は，2でわってもよい理由を，平均の意味から考察できるようにしたい。

【板書計画】